

作成日	2019 年 6 月 30 日
学科・専攻名	院・児童学専攻

## 教育課程・学習成果

### 1. 教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していますか。

#### 【現状説明】

学士課程での学修を基礎として、高度な専門性を身につけるための教育課程を体系的に編成している。具体的には、児童発達・児童保健・児童文化の 3 分野を設け、児童の心身の発達や健康、児童の生活・文化についての専門的知識を身につけ、科学的に研究すると共に、発達支援・子育て支援のための方法や理論あるいは児童文化活動における高度な表現力を身につけた児童が健やかに生きるための専門的職業人や研究者の育成を目指し、多様なアプローチを行っている。また、コースワークだけでなく、演習や実験、研究指導、修士論文の指導を通したリサーチワークにより、高度な知識と研究手法を体得しうる教育課程を編成している。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 2. 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための措置を講じていますか。

#### 【現状説明】

シラバスに授業の到達目標、授業の概要、授業計画、評価方法、授業時間外の学習、学生へのメッセージ、教科書・参考書の明示、京女 AL 区分などを明記し、主体的に学習するように設定している。カリキュラムは児童発達、児童保健、児童文化の 3 領域で構成し、児童の心身の発達や健康、児童の生活・文化について専門的知識を身につけ科学的に研究するとともに、発達支援・子育て支援のための方法や理論、あるいは児童文化活動における高度な表現力を身につけ、児童が健やかに生きるための専門的職業人や研究者を目指せるよう体系的な授業展開を行っている。さらに、論文作成にあたっては個別指導を行い、修士論文中間報告会や学会・研究会での発表を通して、リサーチワークによる指導を行っている。なお、院生は TA として、授業の準備や後輩の指導補助を行うことで自らの学修到達度の確認と指導スキルの向上を図る制度があり、効果を上げている。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

一部の学生ではあるが学会発表や紀要論文への投稿など、リサーチワークによる指導の成果がみられる。

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

### 3. 学生の学修成果を把握し、教育課程及びその内容、方法の適切性についての点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに教育の質向上に向けた取り組みを行っていますか。

#### 【現状説明】

教育課程及びその内容、方法の適切性については各科目受講者数、カリキュラムの妥当性、担当者の選定などを専攻会議で検証している。質向上に向けた取り組みとしては、全学 FD、学科内 FD 研究会、FD 交流会、公開授業の参加等を通して行っている。

#### 【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

#### 【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。

特筆すべき事項なし

**教員・教員組織、FD****1. 教員組織の編成(募集・採用・昇任等)にあたって、職位構成および年齢構成の偏りに配慮した編成をおこなっていますか。また、カリキュラムに基づく教員組織となっていますか。**

かねてより、年齢構成の偏り解消を念頭に組織改革を行ってきており、加えて、各教員の専門分野に関する研究業績や教育における指導能力等も考慮した教員組織をめざしている。特に、教員の専門性と担当科目のマッチングを重視するとともに、設置基準との整合性や教員の男女構成比等にも配慮してきている。教員の男女比は男性 50.0%、女性 50.0%であり、年齢構成は 60 代が 41.7%、50 代は 41.7%、40 代は 16.7%となっている。また、カリキュラムは教育課程編成・実施の方針に基づき、児童発達、児童保健、児童文化の 3 つの領域によって構成され、各教員の専門分野に関する研究業績や教育における指導能力等も考慮した教員組織となっている。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

年齢構成の偏り解消を念頭に組織改革を行ってきた結果、55 歳以上教員の割合が約 90%から約 40%へ大きく改善された。

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

カリキュラムを充実させる方向で検討を行い、教員組織についてもそのカリキュラムに即応した組織改善を行う。

**2. 学科・専攻独自の FD 活動を実施し、教員の資質向上に取り組んでいますか。****【現状説明】**

学科においては、FD 活動や教員の資質向上を図る取り組みが計画的に実施されている。具体的には、各教員の授業担当の状況や研究業績の開示、外部資金獲得状況、授業評価などの方策が講じられている。しかしながら、大学院児童学専攻において授業評価に関しては、在籍する学生が少数であることから、授業アンケートによる評価（意見・満足度等）を教員の資質向上に反映させることに課題が残る。

**【成果および向上施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

特筆すべき事項なし

**【課題および改善施策】※無い場合は「特筆すべき事項なし」と記入。**

大学院に集点化した FD 活動を検討する。

**内部評価委員会からの評価結果（内部評価結果レポート）**

<b>一般的なコメント（総評）</b>
「学会発表や紀要論文への投稿」について、より多くの学生が取り組むよう期待されます。 「カリキュラムを充実させる方向で検討を行い、教員組織についてもそのカリキュラムに即応した組織改善を行う」と記されています。この方向でのカリキュラムの充実、教員組織改善が期待されます。
<b>改善勧告コメント（具体的な改善の指示）</b>
「大学院児童学専攻においては授業評価に関しては、その実施方法に関して課題があり」と記されていますが、どのような課題があるのか、説明してください。

**内部評価結果レポートの改善勧告コメントに対する点検単位の意見**

<b>意見</b>
ご指摘いただきました授業評価の課題について加筆修正しました。それに伴い課題および改善施策について加筆しました。